

公 民 [倫理研究] (100 点 50 分)

2010 年 9 月 15 日 (水) 5 限 実施
前期中間考査
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 倫理研究選択者
Produced by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中にはさんであります。
- 3 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には問題で指定された番号の解答欄に解答を書き、選択問題については正解の番号をマークすること。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第 1 問 次の文章 A ~ E を読み下の問い (問 1 ~ 問 2) に答えよ。(配点 14)

- A 大衆の概念は、群集から公衆へ、さらに大衆へ、という連関で考えられる。コミュニケーションの発展形態で分けると、会話や演説などのパーソナル・コミュニケーションで結ばれている集団が「群集」で、手動印刷機で印刷されたせいぜい数万部程度の新聞やパンフレット類の読者が「公衆」、そして現代のマスコミの受け手が「大衆」である。群集についての理論家としてル・ボンを、公衆については J. G. タルドの名を挙げるとするなら、大衆のそれは [1] であろう。[1] は、その代表作『大衆の反逆』(1930)で、共産主義とファシズムの政権奪取を眼前にしながら、大衆支配の時代の到来を説き、その危険性と可能性を鋭く指摘した。彼の思想の根底には、貴族主義、大衆蔑視の傾向があるが、19世紀に発展した資本主義経済と共和政治によって大衆の水準が飛躍的に向上し、その結果、過去数千年間支配されつづけてきた大衆が、エリート層に反逆し、時代の主役に躍り出ることを見抜いていた。
- B [2] によれば近代官僚制とは、組織に必要な活動が合理的に分業化され、法規の定める権限によってそれを執行する力が与えられること、階級制(ヒエラルヒー)と呼ばれるピラミッド型構成がとられ、これにより上命下服の関係が体系化されること、専門の原則が支配し、職員の採用は専門能力の有無によって決定され、世襲や情実による採用が排除されるとともに、いったん採用された職員はその地位を保障され、昇進制が確立されること、および職務の執行にあたり職員には私情を抑えることが強く求められ、不公平な取扱いが回避されること、などの合理性をもった組織であるとされたのである。
- C [3] の名が世界的に知られるようになるのは 1978 年に発表した著書『オリエンタリズム』によってである。従来、東方趣味、東方研究、エキゾチシズム、といった「オリエンタリズム」の語義に、[3] のこの著書によって新しい意味が加えられた。すなわちオリエンタリズムとはヨーロッパ人が自らの文化的優位を示すために、ヨーロッパとは異なるものとしてオリエントを表象しようとして作りあげた観念であり、そこにはヨーロッパ中心主義が反映している、というのである。
- D ゲマインシャフトは共同社会あるいは基礎社会と訳されるが、語の構成からは「共通あるいは共同していること」で、この意味で使われることも多い。[4] の著書『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』(1887)でゲゼルシャフト(利益社会あるいは派生社会と訳される)と対比しつつ、純粋社会学の根本概念とされた。[4] は人間の共同生活における集合形式、関係形態、規範、価値の研究を社会学としたが、実在的・自然的な本質意思と観念的・作爲的な選択意思とを区別し、前者にゲマインシャフト、後者にゲゼルシャフトという集団類型をたてた。その区別は形式的類型にとどまらず、歴史的発展構想のなかでゲマインシャフトからゲゼルシャフトへと定式化された。

問 1 文章中の [1] ~ [4] に入る最も適当な人名を記せ。

E かつて中国では、漢民族が、自分たちの国のことを「中華」(世界の中央に位置する文化国家)とよんで、その周囲にくらす民族のことを「東夷・西戎・南蛮・北狄」と蔑称した。これらはすべて野蛮人、未開人という意味である。また古代ギリシア人は、自分たちのことを「ヘレネス」(英雄ヘレンの子孫)と称し、異民族のことを「バルバロイ」(自分たちに通じない汚い言語を話す者)と軽蔑をこめてよんでいた。

このように、自分の文化をすぐれたものと考え、他民族の文化を野蛮、劣ったものとみなす態度は、[5]とよばれる。こうした態度は程度の差こそあれ、歴史上多くの民族にみられる。しかし、自民族の絶対的な優越意識は、他民族の排斥、さらにその絶滅にまでエスカレートする危険性をもっていることは、ナチスによるユダヤ人大虐殺や冷戦後のボスニア内戦における「民族浄化」などをみれば明らかである。また、そこまでいたらなくても、自民族の文化的優越とそれにささえられた[6]は、往々にして民族差別や偏見の温床になっている。この意味から[5]を克服し、あらゆる文化はそれぞれ固有の価値をもっており、異文化を自分たちの文化の尺度で評価してはならないとする[7]にたつことが、こんにち求められているのである。

問2 [5] ~ [7] に関して、空欄に入る最も適当なものを、下の ~ のうちから一つずつ選べ。

ナショナリズム
文化相対主義

カニバリズム ステレオタイプ
自民族中心主義(エスノセントリズム)

アメニティ

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～問5)に答えよ。(配点 12)

環境破壊はこんにち、(a)局所的な対処だけでは解決できない範囲にまで及んでいる。地球的な規模で破壊された自然環境をよみがえらせるには、数十年から数百年もの時間を費やさねばならない。また、すでに絶滅してしまった生物種をよみがえらせることはできない。現代の環境問題は、自然との調和をめざす各人の生き方にかかわると同時に、その結果が次世代に、さらには数世代にわたって影響を及ぼし続けるのである。『 [8] 』を書いて深刻な環境破壊を警告したレイチェル＝カーソンは、農薬などの合成化学物質の濫用を、「これから生まれてくる子どもたち、そのまた子どもたちは何というだろうか。生命の支柱である (b)自然の世界の安全をわたしたちが十分守らなかったことを、大目にみることはないだろう」と述べている。したがって環境保護は、わたしたちに課せられた (c)未来世代への新たな責任ということができよう。

エコロジー(生態学)の立場からすると、人間の生活の営みは生態系(エコシステム)のなかに位置づけられる。そこでは、人間や動植物・微生物はみな、それぞれ特徴的な生活圏をもちつつ、同時にそれが他の生物の生活圏の一部ともなり生息している。それによって生態系は物質循環のバランスが保たれて、相互の微妙で複雑な関係は、最終的には地球的な規模での生態系として存在していることになる。しかし近年、人間活動の急激な増大によって、物質循環のバランスが大きくくずれている。地球は完結した一つの生態系をなしており、広大な宇宙を航行する宇宙船にたとえられる。人間を含む多様な生物が将来にわたって繁栄できるように、この (d)「宇宙船地球号」を維持し続けることが、現在の人類に課せられた責任なのである。

環境倫理には次の三つの主張があるといわれている。自然の権利(生存の権利は、人間にだけでなく、すべての生物や生態系などにもあり、人間はそれを勝手に否定してはならない)、 [9] 倫理(わたしたち現在の世代は、未来の世代の生存と幸福に対して責任を負っている)、地球全体主義(有限な地球生態系の保護を優先に考える)。

問1 文章中の [8] ~ [9] に入れるのに最も適当な語を記せ。

問2 下線部(a)に関して、世界規模の対処を必要としている地球温暖化に関して、京都議定書の内容の説明について最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [10]

アメリカが合意しなかったため、京都議定書はすべて無効とされた。

先進国とともに発展途上国にも温室効果ガスの削減目標が設定された。

温室効果ガスの削減目標は国によって異なる数値になっている。

温室効果ガスの排出権を金銭で売買することは禁止された。

問3 下線部(b)に関して、地球環境を保全するための会議についての記述として適当でないものを、次の ? のうちから一つ選べ。 [11]

1972年の国連人間環境会議はスウェーデンのストックホルムで開催された。

国連人間環境会議のスローガンは「かけがえのない地球」である。

1992年の地球サミットはブラジルのリオデジャネイロで開催された。

リオデジャネイロ地球サミットのスローガンは、Think globally, Act locally である。

問4 下線部(c)に関して、未来世代への警鐘として1972年にローマクラブが発表した報告書の名称を記せ。 [12]

問5 下線部(d)に関して、「宇宙船地球号」という閉ざされた地球のイメージで世界の経済を説明したアメリカの経済学者は誰か。その名前を記せ。 [13]

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～問5)に答えよ。(配点 14)

体外受精などの人工授精技術は、子どもにめぐまれない夫婦に大きな希望をもたらすものとして登場した。しかしこの技術は、非配偶者間の受精(授精)による親子関係の問題や生まれた子どもへの告知の可否といった困難な問題を提起することになった。さらに代理母をめぐるのは、親権や養育権はだれに属するのかといった問題や、女性の出産機能を商品化しているのではないかとといった批判も生まれている。

また、[14]診断は特定の病気や障害の有無の確認、あるいは男女の生みわけなどを可能にする技術である。しかしこの技術は、胎児に異常が認められた場合には、当事者に生まれてくる胎児の生命や人権、あるいは出産の可否といった、きわめて倫理的な問題をつきつけることになる。さらに男女の生みわけは、特定の性を尊ぶ文化をもつ地域では、個人的な希望を超えて一方の性の排除をもたらすことになる。このように出生前診断は、健康な子どもや特定の性の子どもを望む人びとに希望を与えると同時に、(a)人間の選別といった問題を生み出す危険性をもっているのである。

医療技術は、ケガや病気の治療を通して、人間の延命に力をつくしてきた。ところが、近年の先端医療技術の発達、臓器移植技術の発達とあいまって、それまでの死の観念をくつがえすこととなった。すなわち、心臓停止・[15]停止・瞳孔拡散という死の3徴候とは別に、1992(平成4)年、脳死臨調は(b)脳死をもって人の死と見なすと発表したのである。これをうけて、1997年には臓器移植法が成立した。この臓器移植に関しては、ドナー(臓器提供者)あるいはその関係者とレシピエント(臓器被提供者)の双方に移植に関する十分な説明をおこない、同意を得ることを条件とする[16]の考えがとりいれられている。これは、当事者の知る権利と自己決定権を重視しようとする立場で、新たな医療のあり方を示すものであった。

医療の根幹は、生命を守ることにある。その意味で医療は、生命や生きることに絶対的な価値を置く(c)生命の尊厳の立場にたつものである。ところが、現代医学では回復の見こみがないようなケガや病気をしたとき、たとえ死期を早めることになっても、苦痛を与えるだけの延命措置は拒否するという尊厳死の考えがあらわれた。それは、延命をはかろうとする医師の立場とは異なる、患者の側からの新たな問題提起である。さらに、患者の立場からの医療に対する提言として、延命措置をふくむ自分の将来の治療のあり方に関して、前もって意思表示をしておくという[17]という考えが生まれ出ることにもなった。

問1 空欄[14]～[17]に入る最も適切な語を答えよ。

問2 下線部(a)に関して、結婚制限、断種、隔離等により望ましくない遺伝因子を排除しようとする思想を何というか。その名称を書け。[18]

問3 下線部(b)に関して、脳死に関する記述として**適当でないもの**を、次の～のうちから一つ選べ。[19]

大脳の死が確認された場合、脳幹が機能していても脳死と認められる。

臓器移植法の改正により、15歳未満でも臓器移植が可能になった。

臓器移植法の改正により、本人の意思が不明でも遺族が書面で承諾するときは臓器移植が可能になった。

脳死とは、生命維持装置があっても成立する人工的な状態である。

問4 下線部(c)に関して、「生命の尊厳」をアルファベット3字で何というか。[20]

第4問 次の文を読み、下の各問い(問1～問5)に答えよ。(配点 16)

(a)自然に包まれて生活する者にとって、自然は恵みを与えてくれる存在であると同時に、畏敬の念をもって崇拜する対象でもあった。列島の古代の人々は、すべての自然のなかに靈魂の存在を認める[21]の信仰をもっていた。

3世紀の中国について記した『魏志』の倭人伝にみえる邪馬臺国の卑弥呼は、倭国をおさめる王であると同時に、呪術を用いマツリを主導する存在でもあった。また卑弥呼には、靈的存在と直接交流することができるシャマン(巫女)の性格がうかがえる。靈をよびよせることのできる宗教者を中心とする呪術的・宗教的民俗であるシャマニズムが、当時の列島社会にみられたのである。

やがてオオキミ(のちの天皇)を中心とする大和政権が成立していくなかで、古神道が成立し、新嘗の祭りなどの農耕行事は、王権のマツリに取り入れられ、マツリ(祭祀)を主催する首長の存在が大きなものになっていった。マツリを通して農業神や祖先の靈と交歓することは、オオキミの重要な役割であった(祭政一致)。こうしたマツリは、現実生活の幸福・幸運を願う行事であり、ここには【 A 】的な性格が認められる。

加藤周一は、(b)外来の世界観と土着の世界観との関係において日本人の世界観を考えた。前近代の日本では、おもな外来の世界観は仏教と儒教であった。仏教も儒教も包括的な体系であり、仏教の場合には仏性、儒教の場合には天または理という超越的な原理を軸にしている。これらの外来思想が圧倒的影響力をふるって土着の世界観を圧倒してしまわなかったのは、日本では土着の世界観が一定の力をもっていて、外来の世界観を「日本化」したからだと説明した。

日本最古の歴史書である『古事記』(712年)には、神話という形をとって、数多くの神々が登場する。『旧約聖書』では、神ははじめに「天地を創造」し、六日目に人間をつくったとされる。しかし『古事記』では、(c)高天原(天上界)ははじめから存在しており、人間のはじまりについては語られない。そこでは、神々が「次々に」「成る」のであり、ついで無数の神々がうみ落とされていくのである。

この『古事記』において特徴的なのは、[22]をハラウ(祓う)という感覚である。たとえば、多くの神々をうんで死んだイザナミが、死の国(黄泉国)にいく場面がある。夫のイザナキはイザナミに会いに、その国へいく。しかし、妻の異様な姿に驚き、この世にげ帰り、「なんと汚い国にいったものだ。異類の[22]を受けたから身の祓いをしなければならぬ」といってミソギ(禊)をした。そして、左の目を洗ったときに[23]大御神、鼻を洗ったときにスサノヲがうまれたと記されている。[22]を忌み、水で浄めるという発想は、日本の神道の基礎にあるものである。また、スサノヲが[23]のおさめる高天原におしいって狼藉をはたらき、豊年の初穂を祝う新嘗の祭りの神殿を汚すというできごとが描かれている。これらの行為は、ツミ(罪)であり、「キタナイ心」のなせる業であり、共同体に対する逆心(黒心:くらきこころ)でもあった。これに対し、「善き心」は[24]心とされた。

問1 文中の空欄[21]～[24]に入る最も適切な語を答えよ。

問2 下線部(a)に関して、自然環境と人間の文化や生活様式の関係を考察した、和辻哲郎の風土論に関する記述として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[25]
自然の恵みと猛威を受けるモンスーン型の風土では、勤勉に自然に対抗して克服しようとする生活様式や考え方が目立つ。
自然の厳しい砂漠型の風土では、戦闘的で団結と服従を重んずる生き方が目立つ。
自然が従順な牧場型風土では、自然のなかに法則をみいだす合理的生き方が目立つ。
日本は四季の変化が激しいので、激情と淡泊なあきらめが混じり合っている点に精神的特徴がある。

問3 空欄【 A 】に入る最も適当な語を、次の ~ のうちから一つ選べ。[26]
禁 欲 現世中心 来世中心 迷 信

問4 下線部(b)に関して、このような日本文化を加藤周一はどのような性質を持つと考えたか。その名称を答えよ。[27]

問5 下線部(c)に関して、古事記の中で高天原の神々が降臨して平定したといわれる、人間的のすむ国を何というか。漢字4字で答えなさい。[28]

第5問 次の文 A,B を読み、下の各問い(問1～問7)に答えよ。(配点 22)

A 仏教は一部の渡来人系の子孫のなかではすでに6世紀の初めに信奉されていたと考えられるが、公式の伝来は百済の聖明王が釈迦仏像と經典その他を朝廷に献上したときとされる。この仏教公伝の年について538年説と552年説があるが、今日では『上宮聖徳法王帝説』や『元興寺伽藍流記資財帳』により前者の538年(宣化3)を公伝の年と考える学者が多い。公伝当初、蘇我稲目は崇仏を、物部尾輿は排仏を、天皇は中立の立場をとったといわれるが、仏教はいくたびかの迫害を受けながらも、蘇我氏を中心に渡来系氏族が多く居住していた飛鳥の地に最初に根づいた。そして、587年(用明2)の排仏派の物部守屋滅亡を契機に、用明朝つづく摂政聖徳太子の推古朝に、仏法興隆の道がひらけた。この時期の仏教の中心は飛鳥と斑鳩(いかるが)だった。飛鳥では6世紀末、蘇我馬子が百済系の技術を取り入れて日本最古の伽藍とされる法興寺(飛鳥寺)を建立し、そののち当寺はこの地域の仏教の中心として栄えた。蘇我氏とともに仏教興隆に尽くした聖徳太子の事績も大きい。太子は仏教に深く帰依し、法華・勝鬘・維摩の三經の注釈書、いわゆる『[29]』を著した。594年(推古2)有名な三宝興隆の詔が出され、これを契機に臣(おみ)・連(むらじ)などの豪族が競って寺を建て、またその第2条に(a)「篤(あつ)く三宝を敬え」の有名な文言がある十七条憲法は今日偽撰説が主張されるが、それでも太子の政治思想が、仏教を根幹に置いて、その普遍的な教理思想のなかで国家統一を志向したことは確かであろう。太子は605年(推古13)斑鳩に移り、この地が飛鳥とならんで当代仏教の中心となった。

奈良時代の仏教は国家仏教の性格をますます強めた。官寺を中心に、そこでは学問のほか、国家鎮護の祈りが盛んに行われた。それを象徴するものが、聖武天皇による741年(天平13)の国分寺造営の詔と、743年の(b)大仏造営発願の詔だった。相続く政局の動揺で衝撃を受けた聖武の朝廷が、仏教による国家の平安と繁栄を祈る試みだった。国分寺は国ごとに僧寺と尼寺から成り、僧寺の塔には読誦すると四天王がその国土を擁護すると説かれた護国の經典『金光明最勝王經』が安置され、尼寺では国土の災害を除去し、女性成仏と庶民の滅罪のための經典『法華經』が読誦され、国家が抱いた官寺仏教への期待がどこにあったか雄弁に語っている。南都仏教はどの時代よりも經典を重視し、ために写經が盛行した。国家や寺や貴族が写經所を経営し、そこで多くの写經生が一切經や特殊な願經を書写した。このことは正倉院文書や現存する優れた写經の現物で知ることができる。

中国で形成された三論・成実・法相・俱舍・[30]・律の六つの宗派、いわゆる南都六宗が留学僧などによって、この時代に奈良の寺院に伝えられた。奈良の都に多くの大寺が建立されたのも、この時代の特色だった。金堂では現世安穩と後世善處を祈る法会が行われ、講堂では僧尼が勉強し、諸堂の朱塗の柱、瓦葺きの雄大な屋根、金色の塔の九輪、堂内に安置された金色さん然たる異形の仏像、壁面に描かれた仏国土の絵など、当時の仏寺はさながら天皇や豪族の権勢と富を示す大陸文化の坩堝だった。こうして、官大寺に存在する仏教は、一般民衆の信仰とはかけはなれた存在だった。これにかわって、国家仏教からはずれた立場にあった(c)行基や道昭や万福、それに官寺の外縁にあった私度僧らが、民衆へ仏教信仰をひろめた。これに山林修行などで術力をつけた私度僧らも、山から降りて民衆社会で現世利益の靈験をあらわし、あるいは村堂を建て、造仏や写經、放生や架橋など知識活動を展開して在家仏教信者を増やしたことが、『日本靈異記』などの説話文学で知られ、この時代の仏教の底辺を知ることができる。

問1 文中の空欄 [29] ~ [30] に入る最も適当な語を答えよ。

問2 下線部(a)に関して、三宝とは何か。漢字3字で書け。[31]

問3 下線部(b)に関して、このとき造られた大仏の名称として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[32]

阿弥陀如来 大日如来 釈迦仏 毘盧舎那仏

問4 下線部(c)に関して、行基の生涯についての記述として最も適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。[33]

社会事業に尽力した法相宗の僧。土木技術の知識を学び、各地に橋を架け、堤を築き、池や溝を掘り、道をつけ、樋を渡し、船息(ふなやど)をつくった。聖武天皇の大仏造営に際しては、絶大な民衆への影響力により、大仏造営費の勧進に起用された。大僧正に任ぜられ、仏教界における最高の地位を占めた。

衆生は、ただ1回の念仏で往生できると信じ、「南無阿弥陀仏 決定往生 六十万人」と記した念仏算(ふだ)をくばる旅を続けた。少数の弟子を同伴して全国各地を遊行したので遊行上人とも捨聖ともいわれた。行く先々で民衆に念仏を勧め、所によってそれは踊念仏にまで高揚することもあった。

遊行中、彼は、険しい道路を平らげ、橋を架け、井戸を掘り、荒野に風葬死者があれば火葬に付して、南無阿弥陀仏の名号を唱えて葬った。絶えずこの名号を唱えていたので俗に阿弥陀聖といわれ、掘った井戸は阿弥陀井とよばれた。生存時から市聖ともよばれたが、これは人の集まりやすい京都の東市、西市の市門に立って人々に念仏と浄土信仰を勧めたからである。

彼は自らを「狂雲子」と号し、形式や規律を否定して自由奔放な言動や奇行をなしたが、その姿は当時の形式化、世俗化した臨済の宗風に対する反抗、痛烈な皮肉であったといえよう。晩年には森侍者(しんじしゃ)という盲目の美女を愛し、その愛情を赤裸々に詩文に詠んでいる。

B 最澄も空海も、京都に都を移した桓武天皇の親任を得て、新しい仏教を開いた。最澄は純粹な求道者の性格が強く、すでに早く天台を学び、都を離れて比叡山に籠り、のち勅許を得て入唐、天台をはじめ密・戒・禅の四宗を相承し、帰国して叡山に四宗合一の天台法華宗を創立した。このような総合的な学風は一乗思想に連なるもので、日本仏教の特徴をよく表している。しかし、(d)この天台一乗の立場は、奈良仏教を代表する法相宗の三乗的立場と衝突し、法相宗の徳一との間に盛んな論争が繰り広げられた。最澄はさらに山上に大乘戒壇を設け、「山家学生式」を制定して大乘菩薩僧の養成を始め、奈良の戒壇と争った。これから、最澄の著作『[34]』が生まれる。大乘戒壇は最澄の没後に公認され、ここに小乗律によらずに、いわゆる円頓戒によって多くの僧が生まれることになった。天台宗には円仁、円珍という優れた後継者が現れ、いずれも長期間入唐して学び、帰国後主として密教(天台密教・台密)を教学の中心とした。

空海は最澄とともに入唐し、長安に長くとどまり、恵果から真言密教を学んでから、多くの経巻や仏具を携えて帰国し真言宗を開いた。とくに嵯峨天皇の親任が厚く、[35]山に金剛峯寺、京都に東寺を建てて真言密教(東密)と同時に鎮護国家の根本道場とした。盛

んに加持祈禱を行って人々の心をとらえる一方、奈良の諸宗とも協調し、『十住心論』などを著して現実主義的色彩の濃い（e）即身成仏の教義を確立した。空海はまた書や文芸に秀でて多彩な文化活動に従事し、綜芸種智院を開いて一般の子弟を教育したほか、諸国を巡って社会事業や教化活動を振興した。なお真言宗には、平安の末期に覚鑿(かくばん)が出て新義真言宗を開き、さらにのち智山(ちざん)(京都智積(ちしゃく)院)と豊山(ぶざん)(奈良長谷(はせ)寺)の2派が生まれた。これに対して、従来の真言宗を古義真言宗とよぶ。

平安仏教は貴族の帰依と保護を受け、寺院の造営、祈禱や法会が盛んであり、貴族からの出家者も多かったところから、一般に貴族仏教とよばれる。その結果、僧位僧官が世俗の権威と絶えず密着していた。なお、寺院は貴族から荘園の寄進を受け、逆にその荘園を守るために、僧兵を蓄え、それはやがて僧兵の横暴を招いて、ついには寺が一つの権勢の中心にかわっていった。

仏教思想が当時の文学などに多く影響していることはよく知られている。それがしだいに民衆化していくなかで、平安中期に広がった〔36〕思想が、当時の飢饉、大火、地震などによる社会不安と一致して、人心を強くとらえ、衰えた弥勒信仰にかわって、阿弥陀信仰が栄えていった。それは、ひたすら念仏によって極楽浄土への往生を願うもので、

『〔37〕』を著した源信、融通念仏宗を開いた良忍などにより急速に拡大していった

問5 文中の空欄〔34〕～〔37〕に入る最も適切な語を答えよ。

問6 下線部(d)に関して、この論争に関する記述として最も適切なものを、次の～のうちから一つ選べ。〔38〕

最澄は法華経こそが唯一の真実であり、法華経を重視する天台宗だけが仏の救いに至る一つの道であると主張した。

最澄は法華経にあるとおり三乗の道は一乗の道に帰するものであり、すべての生きとし生けるものはことごとく仏性を有すると考えた。

法相宗の徳一は、覺りに至るための方法は声聞乗、縁覺乗、菩薩乗の三種類の異なった教えがあり、声聞乗こそすぐれた方法であると主張した。

法相宗の徳一は、人間には仏性を持つ者と持たない者がいるが、仏性を持たない者でも成仏できると考えた。

問7 下線部(e)に関して、即身成仏の教義に関する記述として最も適切なものを、次の～のうちから一つ選べ。〔39〕

釈尊が禅定によって仏となったことにならい、坐禅瞑想をとおして悟りの道にいたることができる。

即身成仏に至るためには、無量劫の長きにわたって無数回の生死を繰り返して修行を積む必要がある。

空海は入定後も肉体は生けるがごとく、廟中に現存して、鬚髪や爪も伸びていたと語られるのにならい、遺体をミイラ化することによって即身成仏できる。

仏の世界を曼荼羅として観想し、手に特定の仏の働きを象徴する印契を結び、口に真言を唱える三密加持という密教的行法によって即身成仏が実現する。

第6問 次の文を読み、下の各問い(問1～問6)に答えよ。(配点 22)

仏教が真の意味で民衆の宗教として確立したのは鎌倉時代だった。いわゆる鎌倉新仏教の成立である。念仏門の系統から、まず法然(源空)が日本浄土宗を開いた。法然は主著【 A 】を著し、富と知識を独占する貴族しかできない造寺・造仏・学解・持戒などの意義を退け、往生の要諦は (a)阿弥陀一仏を信じて、念仏だけを唱えることで、これにより人びとは貴賤・男女の差別なく在家の生活のまま往生できると説いた。これまでのように観想の阿弥陀仏礼拝も、(b)浄土三部経の読誦も不要であり、称名念仏だけが正定業であるという点で、阿弥陀信仰はより易行となり、在家民衆の生活のなかに定着する条件をそなえた。法然の教えをさらに徹底化したのが、浄土真宗を開いたその弟子親鸞である。師の法然がおもに京都で活躍したのに対し、親鸞は晩年こそ京都に帰ったが、越後に流されたあと妻帯し、そののち関東に移り、東国辺地の農民や下級武士に法を説いた。彼は往生の当否は称名よりも、阿弥陀仏への絶対的な信心にあるとし(信心為本)、しかも唯円の作といわれる『[40]』のなかで「善人なをもて往生をとぐいはんや悪人や、しかるに世のひとつねにいはいく、悪人なを往生す、いかにいはんや善人や」、阿弥陀仏の「願をおこしたまふ本意、悪人成仏のためならば、他力をたのみたてまつる悪人、もともと往生の正因なり」と、絶対他力と悪人正機の説を述べた。法然・親鸞におくられて元寇のころ、念仏門に新境地を開いたのが、時宗の宗祖[41]である。[41]は、念仏往生の鍵は信心の有無、浄や不浄、貴賤や男女に関係するのではなく、すべてを放下(ほか)し、空の心境になって、名号(念仏)と一体に結縁することであると説いた。[41]は生涯を廻国遊行の旅に過ごし、念仏に結縁した人びとに往生決定の証明として念仏を書いた紙の札を与え(賦算)、彼らに阿弥号をつけた。時衆に「某阿弥陀仏」と称する人が多いのはこのためである。彼らは賦算と阿弥号をうけ、生きながら阿弥陀仏と一体となると信じた。[41]が遊行し賦算するところ、歡喜の踊(念仏踊)の輪がひろがり、これが時宗の特色となった。同じころ、東国で日蓮が日蓮宗を開いた。日蓮は法華経だけを唯一の正法と認め、この法華経の眼目が「[42]」の題目であるとし、法華経への唯一絶対の信心をもとに、専持法華と唱題だけで、すべての人びとが差別なく成仏できると説いた。しかも日蓮は、彼岸での救済よりも、主著【 B 】で明示したように、(c)正しい仏法が興隆すれば国土の災害除去は可能であると、現実国土の世なおしや現世での救済を重視し、この教説における強卑な現世性がこの宗派の特色となった。

鎌倉新仏教のうち、残る禅宗は宋からもたらされた。臨済禅は1191年(建久2)帰国した栄西が、曹洞禅は1227年(安貞1)道元が伝えた。本来の禅は来世の概念がなく、不立[43]を旨とし、(e)坐禅や公案を中心として自力による悟りを自己の心中に形成することを目的とした。この気骨ある教義と、禅のもつ郁々とした中国文化の香りが、新しい時代の担い手として台頭する武家、それに一部の公家の気風に合致し、当代仏教界に禅宗は新風を吹きこんだ。臨済宗は幕府の保護を受け鎌倉や京都に唐様建築による大寺院を建立し、蘭溪道隆、無学祖元、一山一寧など宋元の中国禅僧を迎え、次の室町時代に五山禅・五山文学の隆盛を築いた。曹洞宗は道元が中央権勢に接近して名利を得ることを拒んだので、彼が拠点とした越前の[44]寺を中心に、鎌倉・室町時代、おもに地方武士層に教線をのばした。

問1 文中の空欄[40]～[44]に入る最も適当な語を答えよ。

問2 文中の空欄【 A 】【 B 】に入る著作名として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つずつ選び、【 A 】は[45]に【 B 】は[46]に答えよ。

興禅護国論

選択本願念仏集

立正安国論

教行信証

問3 下線部(a)に関して、これを漢字4字で何というか。[47]

問4 下線部(b)に関して、浄土三部経の經典として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[48]

観無量寿経

無量寿経

観無量寿経疏

阿弥陀経

問5 下線部(c)に関して、正しくない仏法を日蓮が非難した四箇格言の空欄

C

 に当てはまる語を漢字4字で書け。[49]

	C	
--	---	--

 , 禅天魔, 真言亡国, 律国賊

問6 下線部(e)に関して、道元の言葉として**適当でないもの**を次の ~ のうちから一つ選べ。[50]

仏道を学ぶ肝心かなめは、坐禅が第一である。大宋国の人が多く悟りを得るのは皆、坐禅の力である。文字一つ知らず、学問のない、愚鈍な人でも、坐禅を専一にすると、長年の間産学した聡明な人にもまさってでかすものである。

仏道をならふというは、自己をならふ也。自己をならふといふは自己をわするなり。自己をわするるといふは、万法に証せらるるなり。万法に証せらるるといふは、自己の身心および他己の身心をして脱落せしむるなり。

仏法に正像末を立つ事、しばらく一途の方便なり。真実の教道はしかあらず。依行せん、皆うべきなり。在世の比丘必ずしも皆勝れたるにあらず。不可思議に希有に浅間しき心根、下根なるもあり。仏、種々の戒法等をわけ給ふ事、皆わるき衆生、下根のためなり。人々皆仏法の器なり、かならず非器なりと思うことなかれ。依行せば必ず得べきなり。

茶は末代の養生の仙薬にして、人倫延齡の妙術なり。山谷これを生ずれば、其の地神靈なり。人倫これを採れば、其の人長命なり。天竺・唐土、同じく之を貴重す。我が朝日本、昔之を嗜愛す。昔より以来、自国・他国、俱に之尚ぶ。今更に捐つべきか。況んや末世の養生の良薬なり。

これで問題は終わりです。